

1 活動名

FaceTime を利用した双方向通信による学習支援

2 対象

- ・小学部，中学部，高等部，専攻科の児童生徒

3 内容と取組の様子

- ・新型コロナウイルスの感染防止に係る臨時休業期間中の児童生徒の在宅学習を支援するための一つの手段として，課題の解説や学習の仕方等の支援を，必要な範囲で双方向通信によって設定した。（授業としての位置付けではない）
- ・児童生徒の健康，学習，家庭生活の状況を直接確認する手段として設定した。
- ・宮城県教育委員会の SWANⅢ回線と児童生徒の家庭回線を利用し，ミーティングアプリケーションは，Apple 社の FaceTime を使用した。原則として学級単位での学習支援とし，職員は教室で，児童生徒は家庭で，定められた時間内にミーティングを行った。
- ・通信の実施は，該当学級に事前に一斉配信メールで連絡し，保護者の承諾を得た。
- ・双方向通信の時間は，午前中4コマとし，45分の時間の内，15分程度をミーティング時間とし，後半を自習時間とした。また，ミーティングに参加せずオーディオ通話での支援を希望する児童生徒には，後半の時間で学習支援を行った。
- ・家庭の通信環境により受けられる支援に差異が生じないように配慮し，公共交通機関等を使わずに登校でき，通信環境が整わない生徒には，教室での参加も可能とした。
- ・開始にあたっては，オンラインミーティング参加時のルールを明示し，参加者に守らせた。



4 使用したツール（システム・アプリ・ソフト・教材等）

- ・ iPad ・ FaceTime

5 おすすめポイント

<生徒の感想より>

- ・休み中でもみんなと話して授業ができてよかった。クラスメイトや先生の顔を久々に見ることができて楽しかった。
- ・オンライン学習で使用する学習プリント（今回は休校中の課題）が手元にあるのでやりやすかった。
- ・自宅学習は答え、解説が紙で大変で，でもオンラインだったら声で答えとか解説とか聞けるのでわかりやすかった。
- ・オンライン授業になれていくと、臨床実習や実技は、学校で行い、授業は自宅で、受けるというのは、これからはありだと思う。
- ・顔を見たり，質問したりできたのですごくありがたい。
- ・わからないところがすぐにきけるのがよい。自学よりも効率がよかった。

<教職員より>

- ・生徒のリアクションを見て，フォローができたり，他人の考えを利用したりできた。生徒の生活リズムを整えることができたのもよかった。
- ・予め資料等の準備が整っていれば，対面の場合と比べても比較的遜色なく進めることができる。
- ・普段あまり声を出しながらない生徒であっても，自分の考えをしっかりと答えることができていた。
- ・新しい刺激なのか，生徒の反応がよかった（楽しそうだった）。
- ・生徒2人とのFaceTimeを行ったが，クラスメイトがいることにより，相手の反応や考え方を知ることができるために学びにつながるし，また一人で自主学習するよりも楽しく活動できるので，やる気や理解力 upにつながっているようだ。
- ・一人の生徒が疑問に思ったところを声に出して質問することで，クラス全体で理解が深まる場面もありました。

6 さらに工夫したいこと

- ・生徒が教科書や資料のどの部分を見ているのか，手元でどんな操作をしているのか，何を書いているのかを確認できるようにしたい。
- ・UDブラウザと併用する場合の切り替えをスムーズにできるようにしたい。
- ・生徒に模範解答を示すときに，画面上に素早く見やすい位置に提示できるようにする。